

山中だより

山中 してもらう
キャッチ させられる人から
フレーズ する人へ

枚方市立山田中学校 学校通信 第27号

発行 令和2年3月13日 校長 交久瀬 善浩

◆3年生のみなさん、卒業おめでとう！！◆

3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。中学校最後の日。今、どんな気持ちですか。級友との別れ、4月に向けての意欲や不安、いろいろあるでしょう。

これから先の人生において、いろいろな人に出会い、様々な出来事と遭遇すると思います。苦しいときも常に前を向き、思いやりの心を強く持って、自分で考え仲間と協調し、行動できる人になってください。それができる心と力を、みなさんは持っています。期待しています。



◆◆ 式 辞 ◆◆

例年になく暖かった冬は早々に終わりを告げ、南からやってきた緑を運ぶ風に促され、草木の芽が競って顔を出し、みなさんの門出を祝ってくれています。

今日、ここに卒業証書を授与された一〇七名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

(中略)

さて、卒業生のみなさん。

今年度の卒業式は、コロナウィルス対策のために、歌うのが最後になるかもしれない校歌も演奏のみとなりました。そして何より、卒業前の思い出を紡ぎ、名残りを惜しむ期間であり、公立高校を受験する人にとっては、とても大切な試験前の二週間が休校措置のために登校することができませんでした。とても残念で悔しい思いや不安な心境になったことと思います。おそらく、コロナウィルスの影響は、この先のしばらく続くと思います。進路先の入学式にも影響するかもしれません。辛いと思いますが、今しばらく我慢を続けてください。

それでは話を、本来に戻したいと思います。

皆さんとの付き合いは僅か一年だけでした。しかし、私の中には、体育祭や修学旅行をはじめ、すごく強い印象が残っています。特に体育祭は私にとって初めての陸上競技場での実施ということもあります。三年生の皆さんが中心となって、係の仕事などをまわしている姿、そして何より、全力であの大きなトラックを疾走している姿、「札見て GO!」という種目における皆さんの仮装した姿等々は今だ目に焼き付いています。

また、信州飯田市への修学旅行では、各民泊先の方々から「すごく素直なよい生徒さんばかりですね」とお褒めの言葉をいただきました。それよりも何よりも、全クラスと一緒に宿泊した「ひるがみの森」でのクラスレクリエーション、往復のバスでのレクリエーション、ラフティングに肝試し、どれをとっても、ひとりとして仲間からはみ出す人いない仲の良さと、周りを思いやる心配りがひかっていました。これらは、三年生皆さんのもっている素直な心と、仲間を思いやる心の為せる業であったと思います。

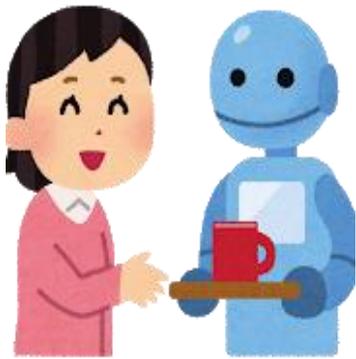
二学期になってからの文化祭でも クラス全員で力を合わせて作り上げた劇は、素晴らしかったです。とても短い取組時間で、あれだけの劇を仕上げるのは大変だったと思います。しかしみなさんは、難なくそれをこなしていました。これもクラス全員の仲が良くないとできないことだったと思います。本当に皆さんは、仲の良い素晴らしい三年生でした。そんな皆さんに山田中学校に異動してきて最初に出会えて、私はとても幸運でした。

そんなみなさんも、今日を限りに山中を巣立つことになります。

ここで、みなさんの卒業に際し、みなさんへの強い期待を込めて、私の思いを伝えたいと思います。

それは、一度しかない自分の人生を、しっかりと自分の力で立って、生きてほしいということです。自分の力で立つ、とは、自分の生き方、行動を、自分で考え、決断して生きる、ということです。自分で考え、決断し、行動すれば、その結果は、自ずと自分の責任となります。つまり、自分の力で立つ、というのは、自分で、自分の責任が取れる生き方をする、ということです。

これまであなた方は、保護者や先生に、ああしなさい、こうしなさい、と言われ、さらには、ああしてもらい、こうしてもらいして、て日々を送ってきたのではないのでしょうか。様々なものを、日々の過ごし方を、いろいろな形で、与えられ、指示されることによって生きてきたし、今もそうやって生きているのではないですか。



与えられ指示される生き方に慣れると、人は自分で考えなくなります。責任を、与えた人 指示した人に転嫁して、自分で責任を取らなくなります。自分の人生を、自分の意思や力で生きることが、できなくなります。私は、このような生き方を、あなた方にしてほしいとありません。

この先、みなさんを待ち受けるのは、これまでの価値観を打ち壊すような激動の社会変化です。超高齢化、海外人材の大量受け入れ、そして人工知能による第四次産業革命により 激動する社会です。三つの要素とも、既に進行形ですが、今後、急激に加速しつつ、みなさんが社会に出て、その中心的存在となる十年から二十年後くらいは、それが大きな波となって、みなさんに打ち寄せていると思います。

私は、そんなときであっても みなさんが強く生き抜き、そして幸せな人生をつかんでほしいと願っています。

私は、その大きな波に、立ち向かうためのキーワードが5つあると思っています。それは、「夢」「気づき」「発想」「協働」「思いやり」の5つです。

日本はこれまで、いくつものリノベーションを起すことで、経済と社会を豊かなものにしてきました。それを根底で支えたのは、人口の増加です。

しかし、少子高齢化が進み、人口は減少の一途をたどり、日本人だけでは、労働人口よりも、高齢者を含む、就業年齢外の人口のほうが多い社会に突入します。その様な形の社会に、世界の中で、日本が最初に突入するのは、その中で、日本という国を存続させるには、社会構造のイノベーションを起す必要があります。

1から10のものを作るリノベーションは、「気づき」と「発想」があればできますが、0から何かを作り出すイノベーション（創造）は、そこに「夢」が存在しなければなりません。

「夢」を抱き、広い視野で鋭く観察し、そこに「気づき」が加われば、次の「発想」につながります。高度化された社会では、一人の力で物事を成し遂げることはできません。「協働」、つまり、互いに協力して働く必要があります。外国の方を理解し、対等に働く必要があります。そこに、「思いやり」の心を加えれば、超高齢化社会を支える、社会構造の創造（イノベーション）を起せるのではないのでしょうか。

「夢」「気づき」「発想」「協働」「思いやり」

この5つのキーワードを実現する力は、人から与えられる生き方をしている人には、ほとんど育ちません。自分の力で立って生きている人にしか育たないのです。

だから、あなた方には、強く、強く、自分の力で立って、生きてほしいのです。



最後になりましたが、みなさん、今日、家に帰ったら、あなた方を今まで育ててくださったお父さん、お母さんに「ありがとう」の心を伝えてください。

感謝の心は、自分を幸せにするための心です。

自分を支えてくれた人や出逢った人への感謝の気持ちで、自分の心を満たしてください。

今日を迎えることができたお父さんやお母さんの気持ちは、みなさんが、将来、親となり、自分の子どもが今日を迎えたとき、初めて理解できるのだと思います。

みなさんが、そのときを、平和で幸せな中で迎えてくれることを切に願って、私の式辞と致します。